

2025 年度大学院前期課程入試問題（経済学）2 次試験正解答

問 1

- (1) 総需要を  $Q$  と表すと、総需要曲線は、

$$Q = 50q = 50 \times (10 - 2p) = 500 - 100p,$$

となる。

- (2) 需要の価格弾力性は、

$$-\frac{dq}{dp} \cdot \frac{p}{q},$$

なので、 $p = 4$  のとき、 $q = 10 - 2 \cdot 4 = 2$ 、さらに、 $\frac{dq}{dp} = -2$  より、

$$-\frac{dq}{dp} \cdot \frac{p}{q} = -(-2) \cdot \frac{4}{2} = 4,$$

となる。

- (3) 総需要の価格弾力性は、

$$-\frac{dQ}{dp} \cdot \frac{p}{Q},$$

なので、 $p = 4$  のとき、 $Q = 500 - 100 \cdot 4 = 100$ 、さらに、 $\frac{dQ}{dp} = -100$  より、

$$-\frac{dQ}{dp} \cdot \frac{p}{Q} = -(-100) \cdot \frac{4}{100} = 4,$$

となる。

問 2

純粋戦略によるナッシュ均衡は、 $(U, l)$  と  $(D, r)$  であり、どちらのプレイヤーも、それぞれのナッシュ均衡から自ら逸脱すると利得が 0 になるため、逸脱するインセンティブを持たない。混合戦略のナッシュ均衡では、相手のプレイヤーが 2 つの純粋戦略の間で無差別であるという特徴を用いて（もしそうでなければ、厳密な混合戦略を使わない）、混合戦略のナッシュ均衡を求める。その結果、混合戦略によるナッシュ均衡は  $\left( \left( \begin{array}{c} \frac{3}{5}, \frac{2}{5} \\ U \\ D \end{array} \right), \left( \begin{array}{c} \frac{2}{5}, \frac{3}{5} \\ l \\ r \end{array} \right) \right)$  となる。

問 3

「政府が財源を確保する手段として、その時点における所得税増税と国債発行のいずれを用いるかは資源配分に影響を与えない」という命題をリカードの等価定理という。その時点での増税ではな

く、国債発行が選ばれたとしても、そのせいで将来増税が行われることを経済主体が想定しているなら、その経済主体は現時点で増税をまぬがれた分を消費に回さず、そのまま貯蓄し、国債償還のための増税に備えることが合理的である。その結果、経済主体は、その時点の増税ではなく、国債発行がなされた場合でも、消費活動をいっさい変えない。

#### 問 4

完全競争市場においては「価格＝限界費用」、独占市場においては「価格>限界費用」がそれぞれの市場均衡において成立する。よって取引価格が同じで、外部性がなく、(生産の)限界費用を資源の社会的価値とみなすことに問題がないならば、独占市場で売られているリンゴを消費する方が、より資源を節約することにつながる。

#### 問 5

- (1)  : 株式は、企業の所有権を証明するだけのもので、この年に新たに生産された財・サービスではない。
- (2)  : 住宅投資
- (3)  : この古民家は新しく生産されたものではない。
- (4)  : 資本財の購入